

《第76号》***蔵書点検について***

図書館は、年に3回、3日間の臨時休館があります。その期間、図書館員が出勤せずに旅行をしたり、遊んだりと休みを満喫しているわけではなく、図書館業務で一番体力を使う製本雑誌の移設作業や、図書館内の蔵書点検を行っています。今回は、この蔵書点検を取り上げます。

◆蔵書点検とは何か？

図書館で登録した図書には資産管理番号とバーコードラベルを付与し、バーコードの数値と図書1冊1冊を紐づけ、図書館システムで管理しています。これにより、どの図書が館内のどこにあるのかがわかるようになります。

図書館システム上のデータでは書架にあることになっているのに、実際にその場所に行ってみても見つからないといったことがないように、本来の配置場所に図書があることを確認するのが蔵書点検です。

◆蔵書点検作業

具体的には専用機器を使ってバーコードを読み取り、図書館システム上のデータとマッチングさせることで所在の有無を確認します。さらりと「バーコードを読み取り」と書きましたが、本学の場合、表紙を開いてからでない読み取りができません。書架は最上段が床から180cm以上のところにあるので踏み台が必要になりますし、洋書の中には分厚くて重い図書もあります。図書を手に取り、バーコードを読み取り、また書架に戻すという一連の作業を繰り返すため、次の日に筋肉痛になる人もいます。また、2人1組になって作業をする場合には、片方が踏み台に載って図書を手にとり、もう片方が受け取り、作業台としてのブックトラックに載せていく過程で図書落下などの危険が発生する場合があります、注意が必要です。

分類毎、和洋別のデータとマッチングさせると、読み取らなかった図書が「不明図書」としてリストアップされてきます。このリストを手にして再度担当した分類に向かい、点検します。

読み取りは単調な作業が続くため、読み忘れていた場合もあります。付属資料が図書に挟まっていたり、薄い図書の場合はバーコードを見逃してしまったり、1段まるまる読み飛ばしていたということもあります。それでも見つからない場合に、行方不明であることが確定するのです。

◆蔵書点検後のこと

適正な資産管理のため、蔵書点検により「所在不明が判明し、補充不能で3年が経過した」場合には、大学の資産から差し引く除籍処理を行います。

◆講座配置図書の蔵書点検

研究費で購入した図書は、登録した後で講座配置となる場合があります。それらの図書は、講座へリストを配布して確認してもらいます。2019年度矢巾に移転した臨床講座については、図書館員が研究室に出向き点検をしました。紛失してしまった場合、紛失届を提出し各講座で弁償することになります。

◆最後に

2018年度、内丸図書館では33,847冊、矢巾図書館では55,038冊の図書を対象に点検しました。利用者が書架から手に取り自由に利用できる「開架書架」にある資料のうち、図書を対象に毎年点検をしているので、蔵書冊数とは開きがあります。貸出する機会の少ない閉架書庫にある資料は、隔年で点検しています。

図書館に行ってみたら臨時休館でガッカリした方もいらっしゃると思います。臨時休館については、図書館HPや掲示のほか、OPACの開館カレンダーでもお知らせしています。ご迷惑をおかけしますがご理解いただけましたら幸いです。

図書館トリビア

蔵書点検では、普段であれば気にも留めたことがないような図書と出会うことがあります。例えば、2019年にノーベル化学賞を受賞した吉野彰氏や、2016年にノーベル生理・医学賞を受賞した大隈良典氏が研究者の原点になったきっかけとして挙げた図書である「ロウソクの科学」(岩波文庫)も矢巾図書館で所蔵しています。矢巾図書館は食堂棟2階のワンフロアにあるので、ぶらりと歩いて眺めてみると、味のある図書に出会えるかもしれません。

メールマガジンに関するご意見・ご質問は、図書館 tosh@j.iwate-med.ac.jp まで。

<編集・発行> 岩手医科大学附属図書館